

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)
事業期間を通じた評価

国立大学法人東京大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の事業期間を通じた評価について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり評価結果をお示しします。
あわせて、本検討会の所見についても別紙のとおりお示しします。

記

A	当初の構想どおりの取組が行われ成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。
---	--

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の
事業期間を通じた評価

国立大学法人 東京大学

(検討会の所見)

- 改革強化で重要な産学連携収入獲得の実績には目を見張るものがある。他にも、社会改革をリードするためのしっかりした自立的な経営基盤確立のリード役としても順調に推移している。
- コロナ禍の影響はあるものの、「国際求心力の強化」、「FSI の推進」、「卓越した研究・学際融合研究のための基盤整備」の3つの柱からなる経営改革が構想通りに着実に実現されている。また、KPI も達成している。今後、FSI を中心に文理融合が可能な総合大学としての強みをより発揮することを期待したい。
- 大学が社会変革を駆動するため、未来社会協創推進(FSI)の仕組みを作り、社会的価値を創出し、安定的かつ自立的な経営基盤を強化する、という東京大学ならではの高度な成果目標を定め、積極的な改革を行い、着実に成果を上げている。KPI に関しては、海外著名研究者招聘と外国人留学生受け入数に関しては達成できていないものの、これはコロナ禍による渡航規制等によるもので、不可抗力といえよう。その他の指標は全て達成している。また、本事業終了後の経営改革構想についても、自律的で創造的な大学活動のためのしっかりした目標を定めている。
- 国際関連の取り組みをはじめ、種々の取り組みの実績は COVID-19 の影響を少なからず受けたと思われるが、これらから得た教訓を今後の経営計画にどのように活かしていくかという視点も必要であろう。
卓越研究、学際融合研究のための基盤整備、若手人材育成などに関する取り組みは、外部資金調達力のある東京大学だけあって順調に進捗している。また、総長直下の FSI 基金活用による運営、組織改革はリーダーシップの発揮という面で注目されるが、構成員のモチベーションを高く維持するためのボトムアップをどう位置づけるのかも注目される。
- 掲げた構想全体としては概ね順調に進んでいるように見受けられる。KPI のなかには未達のものもあるが、コロナ禍にあることを言い訳にせず、逆手にとる形で工夫して前向きな対応を進めていることは評価できる。ただし、何よりも、東大ほどの国内随一の研究大学が今日、目指すべき姿は、創立後年数の浅い組織でもない以上、「社会的な価値を創出する準備を整える」ことではなく、「社会的な価値を創出する」ことそのものではないのか。その意味で、本来の研究活動の成果を測る KPI が設定されておらず、改革を通じて本来求められる成果がどれほど上がっているのかを評価することは難しい。資金運用の KPI の実績値は、各年度の市況の影響を大きく受けやすいポートフォリオであるためか、利回り率の振れが大きくなる結果となっており、先行きが案じられる。